

まちが崩壊する前に

柴田 いづみ

環境建築デザイン学科

●はじめに

「災害は忘れた頃にやって来る」、2011年の暮あけはこの言葉どおりに始まりました。しかし、常日ごろ言っているように「平常時に機能しているコミュニティは、災害に強い」ことを、さらに他との共動を厭わないコミュニティは、「災い転じて福となす」ことができると実感した年でした。(共動：柴田造語：一緒に活動し他者の立場で考えることができること)

●2011年、寺子屋力石の火事

2011年1月2日@東京、「寺子屋力石が火事です。」という電話が彦根からかかり、胸が潰れた瞬間でした。遠方ではどうしようもなく、すぐ写真を送ってもらったところ、2007年に耐震補強をした壁が耐火壁になり、お借りしていた部分を守ってくれていて、「これは再興できる！」と確信をもちました。

火災後にいち早く駆けつけて下さったボランティアの方々には、本当にありがたかったです。

地元ばかりでなく、第2ひこね街の駅「戦国丸」に来てくださっている義の三将ファンの方々です。LLPひこね街の駅所属のゆるきやら「いしだみつにゃん、しまさこにゃん、おおたににゃんぶ」の三将です。

応援歌「前へ 前へ」は、彦根を良く訪れてくださっていたCjifaさんが作詞して下さい、2月5日に、建物前の路上でお披露目ライブをしました。

3月3日のひな祭りに向けては、地元のこども達が紙でお内裏様を折り、花を活けてくれました。寺子屋力石は、まだ火災現場そのものでしたが、山本ひまりさんの描いたゆるきやら達の幕で隠して会場に仕立てました。元寺子屋なので、こども達が戻ってきてくれて、建物も喜んでいでしょうし、地元のこども達に再興の課程に参加してもらいたいと思ったからです。

そんな再興作業の中、3月11日の大震災になり、その後は、応援歌CDの売り上げも東北支援に、それもいしだみつにゃんの盟友繋がり、米沢のかねたん(直江兼継)のところに来ている地震・原発避難者の方々に直接渡すようにいたしました。

1期工事が4月初めに終わり、2期工事は、都市計画道路の計画廃止決定を待ち、重要伝統的建造物

郡保存地区を申請し選定されてからの工事になります。

屋根はまだビニールシートのままですが、使いながら再興をすすめています。火災からの顛末は以下のブログになります。

<http://chikaraishi.hanashobu.net/>

●2007年、木造伝統構法による耐震補強

従来の町家は、トオリニワに面しての座敷は柱だけのことがあり、長手方向の隣家との隔壁は壁があっても、その他の場所は、どの方向も壁が少なく、壁面を増やす必要がありました。まだまだ木造伝統構法による耐震補強方法は試行錯誤の中でしたが、金沢工業大学名誉教授の鈴木有先生を座長に迎え、「木造伝統構法彦根研究会」を開き、現代の名匠になられた西澤正男さんも指導して下さい、方策を練っていきました。高田豊文先生も参加して下さい、2007年10月の1ヶ月をかけて市民・建築士・行政マン・大学生・教員のボランティアで1階部分を柱の増設と「荒壁パネル」「木格子」を使い補強しました。現場は、床を解体すると柱も腐食していて宙に浮いているなど自然劣化部分も多く、専門的な大工さんの手も必要としました。その後、「耐震グランプリ、内閣総理大臣賞」をいただき、嘉田由紀子知事も来て下さいました。くらしセイフティ、2009年4月2日放送分：

http://www.bbc-tv.co.jp/hensei/tv_kurasi_safety/index.php

●おわりに

京都清水寺の「今年の漢字」について、以前に環境科学部にいらした伏見碩二先生から「1995年は「震」、2004年は「災」、2011年は何になるのでしょうか」と年賀状をいただきました。結果は「絆」だったのですが、1995年に始まった「今年の漢字」を年度ごとに調べてみました。「震」の1995年は、「阪神淡路大震災や地下鉄サリン事件」、「災」の2004年は新潟県中越地震や集中豪雨。しいて言えば、2000年の「金」以外、他の年もほとんど悪い意味であるのに気がつきました。そして、未曾有の大震災や原発被害の年に「絆」になったのは救いに思えました。実際に多くの人が手を繋ぎ、励ましあっている場面に多く遭遇しました。第1ひこね街の駅「寺子屋力

寺子屋力石（火災前）



寺子屋力石（火災後）



2007年木造伝統構法による耐震補強、角の柱



腐朽した柱の根継ぎ作業



2007年10月 耐震補強前



補強の荒壁パネル、木格子



2011年2月5日、応援歌「前へ前へ」路上ライブ



2011年3月3日の花祭りに向けての活け花



2007年10月 耐震補強前



増設された柱と壁



2011年 再興工事中、奥の座敷は燃えて崩壊



2011年 再興1期工事後 9月の写真展の様子



2011年 再興1期工事後、9月の写真展の様子



石」の再興1期工事でもそうでした。花しょうぶ通りでは、2011年に4つの建物が登録文化財に選定され、その一つ、旧川原町郵便局舎（ニックネームは逓信舎）は、情報発信をテーマにインターネットラジオ局併設のカフェとして、第3ひこね街の駅に2012年2月5日に生まれ変わります。花しょうぶ通りの2011年は、1月の火災から12月の逓信舎の工事へと東日本大震災への支援を挟んで、飛躍しようとしています。2012年の辰年には、各地の被災地もより大きく飛翔して欲しいと願っています。